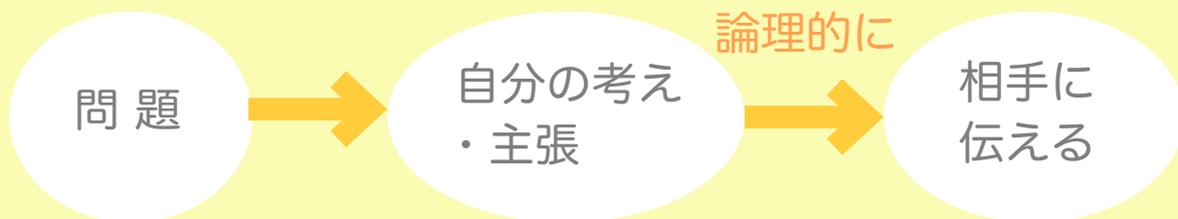


小論文作成のポイント

小論文とは・・・

小論文は、問われていることに対して「私は、～と考える」という意見を述べ、「なぜなら、～だからだ」という理由（論拠）を筋道立てて説明し、相手を説得する文章のこと。



問題を読み解く！

問われていることを正確に把握し、書くべきことを考える。

Q：就職して5年後の自分がどのように社会に貢献しているかについて書いてください。
(書くべきこと) 5年後の自分がどのように社会貢献しているか

Q：消費税は5%から8%になり、将来的には10%になる可能性もあります。あなたは税率はどのくらいであるべきと考えますか。
(書くべきこと) 自分がこうあるべきと考える消費税率

Q：いままでのあなたの学修経験の中で、身につけた最も大事なことはなんですか。また、それをこれからどう活かしたいかを書いてください。
(書くべきこと) 学修経験で身につけた大事なこと
それをこれからどう活かしたいか

基本的な構成

序論

本論

結論

基本的な構成は「序論」1割、「本論」8割、「結論」1割くらいの目安で書くとよい。

- 序論：背景・現状を説明する。問題提起をおこなう。いきなり結論を書く手法もある。
- 本論：「序論」で問題提起したことの説明。「結論」に至るまでの理由。
- 結論：自分の主張したいことをまとめる。「したがって～～である」

構成メモを作ってみる

書かなければならないことを箇条書きにして整理する。

- 問われていること、書くべきこと
- 序論に書くこと
- 本論に書くこと
- 結論に書くこと

たとえば

Q：LINE や Twitter などの SNS の普及が、人のコミュニケーションにどのように影響を与えていると考えますか。

- 書くべきこと：SNS の普及が、人のコミュニケーションに与える影響
- 序論：SNS が人のコミュニケーションに与える影響についての自分の意見
- 本論：事例などから SNS のメリット・デメリットを挙げ、影響となる理由。
- 結論：よって、SNS は～～～な影響を人のコミュニケーションに与えている

ストーリーが重要！

「序論」から、「結論」に至るまでの流れが、論理的なストーリーになっていることが重要。

<例1>

序論：自分は〇〇について、～～と思う。

本論：～～と思うことの根拠、理由

結論：したがって、自分は～～と思う。

<例2>

序論：目的達成のためには、現状〇〇な問題がある

本論：〇〇を解決するための具体的な方法

結論：以上のように、〇〇を解決し、目的を達成すべきと考える

段落について

1つの段落は1つのテーマを書く。

たとえば、2ページのSNSの問題について、「本論」部分を書くとする・・・

<悪い例>

SNSは気軽にやりとりができる反面、既読スルーやLINEはずしのようないじめがあったり、Twitterでの炎上が頻繁に起こっていたりして問題がある。また、簡単に投稿できることで、情報漏えいの危険性もある。

→1つの段落に「いじめ」「炎上」「情報漏えいの危険性」とテーマが書き込まれすぎ！
結局、なんの話がしたいのか？となる。

<良い例>

SNSでのやりとりは「相手の顔が見えない」ということがある。実際に面と向かっていたら発しないような言葉も、SNSでは比較的軽く書いてしまうことがあると考えられる。これは言葉を届けている相手を「ひと」としてちゃんと意識していないために、相手の人格に配慮せず発言してしまう危険性がある。

→「相手の顔が見えない危険性」にテーマがしぼられている

トピックセンテンスについて

トピックセンテンスとは、その段落で最も言いたいことを表した文章のこと。
通常段落の一番はじめに書く。

さきほどの良い例文でいうと

「SNSでのやりとりは「相手の顔が見えない」ということがある。」の箇所がトピックセンテンス。

まず、トピックセンテンスを書いて、その後に詳しい説明を書いていく。

順序について

段落、文章は、論理的な順序になるように気をつける。

(理由—結論) Aという理由がある。したがってBである。

(時系列) まずAが起こり、次にBが起こり、その結果Cが起こった。

(並列) ～～には2つの場合がある。1つはAである。もう1つはBである。

本番では・・・

時間配分に気をつける。

「構成メモ」を書くのに何分、小論文を書くのに何分、見直しするのに何分、
ということを想定して書きましょう。

9割は埋めよう。

なるべく制限字数ぎりぎりまで書いたほうが印象がよいです。

著者：天野 由貴

発行日：2016年6月16日

連絡先：y-amano10@hiroshima-u.ac.jp

配布サイト：<http://home.riise.hiroshima-u.ac.jp/~ten/>

